

学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時：平成25年7月23日(火) 11:00～11:30

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

発 表 事 項

1. 山形大学生生活協同組合と災害時の相互協力に関する協定を締結しました
2. 平成25年度「地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」に採択
3. 山形のシカはどこから来たのかを解明しました
4. YU-COE(E)「パラオ諸島の生物多様性に関する教育研究拠点形成」に関する活動報告
5. 第6回山形大学高校生朗読コンクール／群読劇を開催します
6. 『奥の細道マイスター養成講座(初級)』を開催します

お 知 ら せ

1. 大学コンソーシアムやまがた「やまがた夜話」の開催
2. FD ネットワーク“つばさ”プロジェクト 大地連携ワークショップの実施

(参 考)

○ 次回の学長定例記者会見(予定)

日 時：平成25年8月6日(火)11:00～11:30

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

平成25年7月23日
山形大学

山形大学生生活協同組合と災害時の相互協力に関する協定を締結しました

山形大学と山形大学生生活協同組合は、災害が発生した時に、相互に協力して応急対応するために、本日7月23日付けで「災害時の相互協力に関する協定」を締結しました。

◆目的

山形大学と山形大学生生活協同組合は、災害時の地震、風水害、大火災その他による災害の発生時に相互に協力して、学生・教職員並びに大学に避難して来られる地域住民に緊急対応し、安全や安定を図ることを目的に、協定を締結しました。（別添協定書を参照）

◆概要

災害発生時に本学の要請に基づき、山形大学生生活協同組合から飲料水及び食料等の提供、食堂等施設の災害時利用、器具・車両等の提供、燃料の提供等を受けるといふものです。

本協定の締結により、災害時には情報を共有しながら、本学と山形大学生協が相互に協力して緊急対応に当たることとなります。

◆その他の支援体制

小白川キャンパスのグラウンド及び体育館が山形市避難所に指定され、大学敷地内に『山形市防災倉庫（2坪）』を設置しています。倉庫には、発電機・投光器、毛布・携帯トイレ・食糧等が備蓄されています。

また、本年度内を目途に、山形大学独自に『被災者支援システム』の構築を計画しています。このシステムは、小白川キャンパス内の就学生・教職員（5,700人余）への防災対策の整備充実を図るとともに、帰宅困難となった就学生・教職員の他、被災した地域住民も合わせて大学の施設内で支援するための設備等（井戸掘削による飲料水等の確保、自家発電の導入、照明の確保、救護所、冬季の暖房の確保等）の整備を行うものです。（別添災害時の支援体制図を参照）

今回の生協との協定締結をはじめとするさまざまな取り組みは、学生・教職員のみならず、地域の皆さまの安全確保にも大きく寄与できるものと考えています。

（お問合せ先）
エンロールメント・マネジメント部
政策課
電話 023-628-4700

国立大学法人山形大学と山形大学生生活協同組合との間における災害時の相互協力に関する協定書

国立大学法人山形大学（以下「甲」という。）と山形大学生生活協同組合（以下「乙」という。）は、災害時における相互協力に関する協定を次のとおり締結する。

（目的）

第1条 甲及び乙は、地震、風水害、大火災その他による災害（以下「災害」という。）発生時において、相互に協力して学生・教職員並びに大学に避難してきた地域住民に緊急対応し、安全や安定を図ることを目的とする。

（協力要請する事項）

第2条 甲は、災害時における緊急対応のため、乙に対し次の事項を協力要請することができる。

- (1) 飲料水及び食料等の提供
- (2) 食堂等施設の災害対策への利用
- (3) 器具・運搬車両の提供
- (4) プロパンガス及び関連器具並びに灯油の提供
- (5) 災害対策に必要な労務の提供

（協力の期間）

第3条 乙の、前条に規定する協力の期間は7日以内を限度とする。ただし、甲・乙協議の上、協力の期間を延長することができる。

（緊急連絡網の整備）

第4条 甲及び乙は、災害時における相互協力を円滑に行うため、災害時緊急連絡網を整備するものとする。

（情報の提供）

第5条 甲は、乙に対し災害に関する必要な情報を提供するものとする。

（協力の実施）

第6条 乙は、甲からの協力要請に対し、協同組合の理念に基づき全国の大学生協ネットワークの協力も得ながら、積極的に応えるものとする。

（甲の要請手続き）

第7条 甲から乙への要請手続きは、文書をもって行うものとする。ただし、緊急を要するときは口頭又は電話等をもって要請し、その後速やかに文書を提出するものとする。

（乙の受諾手続き）

第8条 乙は、甲からの要請に協力するときは、文書をもって受諾の回答をするものとする。ただし、緊急を要するときは口頭又は電話等をもって回答し、その後速やかに文書を提出するものとする。

（費用の負担）

第9条 第2条により乙が提供した費用の負担は、甲・乙協議の上、決定するものとする。

(災害対策物資の管理)

第10条 乙は、第2条に規定する飲料水及び食料等を乙の食堂等において管理するものとする。

(在庫状況の報告)

第11条 この協定の万全な実施を期すため、甲は乙に対して、飲料水及び食料等の在庫状況について報告を求めることができる。

(防災訓練等への参加)

第12条 乙は、甲の開催する防災訓練等に積極的に参加するものとする。

2 甲は、防災訓練等の実施に当たっては、事前に乙に文書で通知するものとする。

(協定の有効期間)

第13条 この協定の有効期間は、締結した日から起算して1年間とする。ただし、甲と乙のいずれかから特段の申し出がない場合は、有効期間満了の日の翌日から起算して1年間延長するものとする。

(その他)

第14条 この協定の実施に関し必要な事項及び定めのない事項について、これを定める必要がある場合には、その都度甲・乙協議の上、定めるものとする。

この協定書は2通作成し、双方記名押印のうえ、各自1通を所持する。

平成25年 7月23日

(甲)

国立大学法人山形大学

学 長 結 城 章 夫

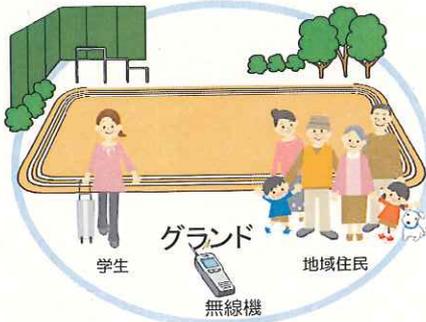
(乙)

山形大学生生活協同組合

理事長 佐々木 実

小白川キャンパス 災害被災時の支援体制図

2013.02.18



平成25年7月23日
山形大学

平成25年度「地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」に採択

このたび、文化庁の平成25年度「地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」に、山形大学附属博物館(山形古文書伝承事業実行委員会)の「山形の古文書を未来へ伝承するプロジェクト」が採択されました。

1 事業の名称

「山形の古文書を未来へ伝承するプロジェクト」

2 目的

東日本大震災後、「自分たちの生まれ育った地域の歴史や文化を未来に伝える」ことの必要性が再認識され、山形県内の博物館を訪れる地元の利用者が急増した。本事業はこの気運をサポートし、特に古文書による学びを支援する環境の整備と研究者・指導者の育成に貢献することを目的とする。

3 事業概要

山形県内に質量ともに豊富に伝承されてきた古文書を活用し山形の歴史と文化を未来へと伝承するプロジェクトで、「古文書自体を未来へと伝承するためのアーカイブ事業」及び「古文書の意義と活用方法を幅広い世代に啓蒙し、伝承の担い手を育成するための普及事業」の2事業を3カ年計画で進めていく。

初年度である平成25年度は、下記の事業を実施する。

(1) アーカイブ事業

- ① 古文書目録化
- ② データベース構築

(2) 普及事業

- ① 「古文書から山形を知るシンポジウム」開催
- ② 「古文書寺子屋」開校

4 補助事業経費(内定額)

9,804,000円

5 事業実施期間

平成25年7月1日～平成26年2月28日

(お問合せ先)

附属博物館 高橋 加津美

電話：023-628-4930

平成25年7月23日
山形大学

山形のシカはどこから来たのかを解明しました

山形で最近目撃が増えているニホンジカは、岩手と北関東の2地域から進出していることが、遺伝子分析により明らかになりました。本件については、2011年に新聞報道でも紹介されましたが、この度、調査結果をとりまとめた論文が、日本哺乳類学会発行の学術雑誌に掲載されました。

○山形県ではニホンジカの出没例が増加

ニホンジカ（シカ）は山形県内では大正期に絶滅し、その後の約90年間、目撃例はほとんどありませんでした。しかし、2009年以降、県内各地で再びシカが散発的に目撃されるようになりました。シカが増えると農林業への新たな被害が生じることが懸念されます。そのため、山形大学理学部生物学科では、本県に現れたシカの出所を明らかにするための調査を行い、その成果の一部を、日本哺乳類学会の学会誌「哺乳類科学」（53巻1号、2013年6月発行）で発表しました。

○山形のシカは岩手と北関東方面から進出

山形県に進出しつつあるシカの出所を明らかにする目的で、DNA分析を利用した調査を行いました。村山市、鶴岡市、小国町で交通事故により死亡した4個体から組織を採取してミトコンドリアDNAの塩基配列を調べました。エゾシカからヤクシカまで日本各地のシカが持っているミトコンドリアDNAの配列と照合したところ、1個体の遺伝子型が岩手県北上山地のシカでみられる遺伝子型と一致しました。一方、他の3個体は、尾瀬や日光など北関東のシカと系統的に近いことがわかりました。この結果から、山形県のシカは、南北2つの地域から、別々に進出している可能性が示されました。山形県森林環境研究センターによる出没状況の調査でも、複数のルートでシカが県内に進出していることが示されています。

○山形県立博物館企画展「やまがたの野生動物」について

上記の研究成果については、7月27日～9月23日に開催される山形県立博物館企画展「やまがたの野生動物」でも紹介しています（別添資料参照）。同企画展では、シカと同様に本県で目撃例が増加しているイノシシに関する説明もしています。

（お問合せ先）
理学部生物学科・玉手英利
電話023-628-4620

企画展

やまがたの野生動物

- けものにとりの多様性 -



2013年
7月27日(土)
~9月23日(月)

クマタカ

講演会

会場：山形県立博物館 時間：午後1時30分～3時

- | | |
|--------------------------|---------|
| 8/3 (土) 野鳥の生態と保護 | 講師 由井正敏 |
| 8/10 (土) やまがたの哺乳類 | 講師 伊藤健雄 |
| 9/8 (日) 吾妻の白猿 | 講師 縮 文夫 |
| 9/15 (日) 野生動物が最も影響を受けるのは | 講師 東 英生 |



カモシカ

展示解説会

7/27 (土)・8/17 (土)・9/14 (土) 午後1時30分～

山形県立博物館 Yamagata Prefectural Museum



入館料 大人300円(団体150円) 学生150円(団体70円) 高校生以下無料 障がい者と付添1名無料

開館時間 午前9時～午後4時30分(入館4時まで)

休館日 月曜日(休日の場合は翌火曜日) ただし8月5日、12日は開館 9月3日は休館

〒990-0826 山形市霞城町1番8号(霞城公園内) Tel.023-645-1111 Fax.023-645-1112 ホームページ <http://www.yamagata-museum.jp/>

平成25年7月23日
山形大学

YU-COE(E)「パラオ諸島の生物多様性に関する教育研究拠点形成」 に関する活動報告

理学部で推進している同研究プロジェクトで、研究成果をまとめた総説本の出版、国際学会での発表を行い、高い評価を受けました。また、一般向け講義として、7月14日に農学部で「クラゲマイスター養成講座」を開催し、クラゲ類に関する最新の研究成果を紹介しました。

1. パラオ諸島海水湖群に生息する海洋生物の進化に関する総説本出版と評価

ヨーロッパのInTechという出版社から「パラオ海水湖群に生息する海洋生物の進化」に関する研究成果をまとめた英文の総説を出版しました。電子出版された私達の章は、世界中で1500件以上ダウンロードされて読まれているとの通知があり、高い評価を受けていることがわかりました。

2. 海水湖群に生息する魚類集団の進化に関する国際学会での発表と評価

6月24日～28日に沖縄で開催された第9回インド太平洋魚類国際会議で、「パラオ海水湖群に生息する魚類の進化」に関する口頭発表を行いました。そこで、この分野の権威であるハワイ大学のB. W. Bowen教授らから“Exciting data!”という賞賛の言葉をいただきました。

3. クラゲマイスター養成講座の開催

一般の方々に「海洋生物の進化の実験室であるパラオ海水湖群」の魅力を伝えるために、7月14日に農学部で開催される「クラゲマイスター養成講座」で、「パラオのタコクラゲ・ミズクラゲの形態進化の謎」という題目で講義を行いました。

4. 今後の予定

今年度は10月27日～11月3日の日程でパラオ諸島へ調査に行き、海洋生物の調査を行う予定です。特に、クラゲ類では、昨年度発見され、DNA分析の結果サカサクラゲ属の新種であることが判明した幼生を持ち帰る予定です。持ち帰ったクラゲ幼生は加茂水族館で飼育し、クラゲ体の形態を詳しく観察して、論文発表の準備をする予定です。

* YU-COE(E)：国際的に通用する高い水準の研究拠点や、研究成果が社会、地域に大きく貢献する研究拠点に将来なり得る研究グループに対して、山形大学独自で拠点形成支援を行う制度。

(お問合せ先)
理学部生物学科・半澤直人
電話023-628-4613

平成24年度の研究成果



一度もクラゲ類を発見したことがない海水湖
湖底の落葉に付着するポリプ幼生発見



DNA解析により **サカサクラゲ**属の未記載種と判明

差出人: InTech Author Stats <authorstats@intechopen.com>

件名: Your Chapter has reached 1500 downloads

日時: 2013年5月4日 05:32:44JST

宛先: Naoto Hanzawa <hanzawa@sci.kj.yamagata-u.ac.jp>

▶ 1 個の添付ファイル、120 KB

Dear Prof. Hanzawa,

We are pleased to inform you that your paper "Genetic Diversity and Evolution of Marine Animals Isolated in Marine Lakes" has achieved impressive readership results. The chapter you have published with InTech in the book "Analysis of Genetic Variation in Animals" has so far been accessed 1500 times. Congratulations on the significant impact that your work has achieved to date.

The top downloads of your paper are from the following five countries:

United States of America

Brazil

India

China

Japan

More information and statistics regarding your paper can be found on your Author Panel:

<http://www.intechopen.com/account/login>

If you are interested in additionally disseminating your work, there you will also find the necessary guidelines.

The book containing your paper can be directly accessed at this link:

<http://www.intechopen.com/books/show/title/analysis-of-genetic-variation-in-animals>

We congratulate you once again on your success.

InTech Author Stats

InTech - open science, open minds

Email: authorstats@intechopen.com

Website: <http://www.intechopen.com/>

Phone: +385 (51) 770 447

Fax: +385 (51) 686 166

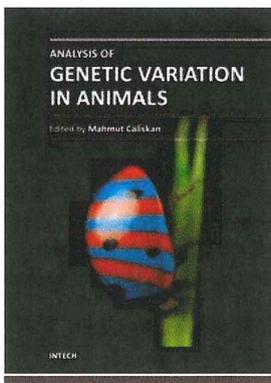
Corporate Address

YOUR CHAPTER BY STATS AND NUMBERS

MAY 03, 2013

Chapter metrics for "Genetic Diversity and Evolution of Marine Animals Isolated in Marine Lakes", published in the book:

Analysis of Genetic Variation in Animals



Edited by: Mahmut Caliskan

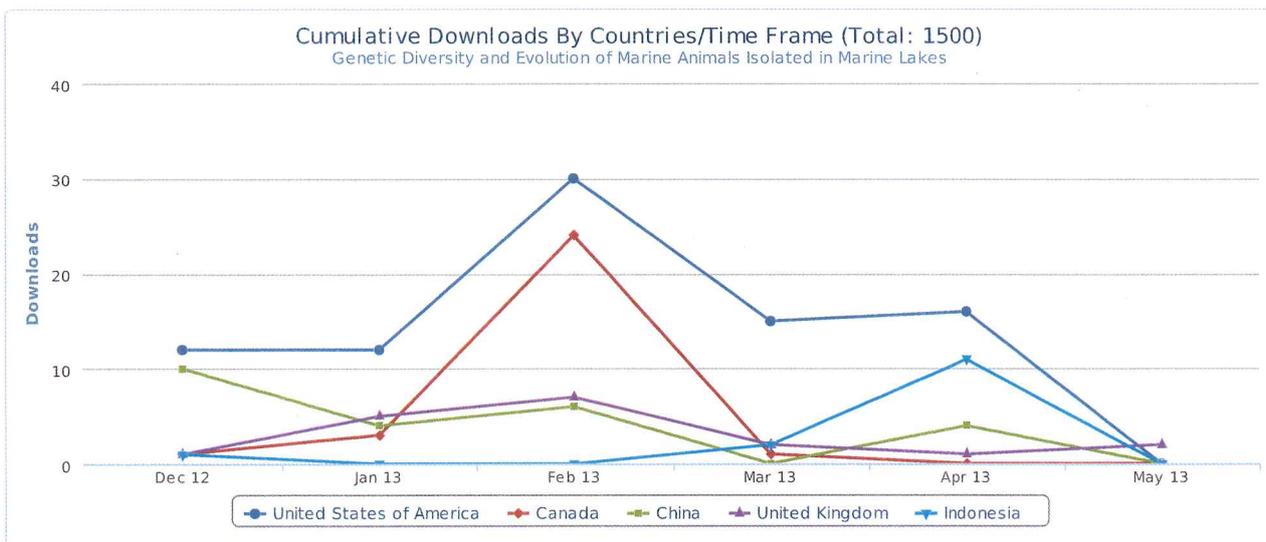
ISBN 978-953-51-0093-5

Publisher: InTech

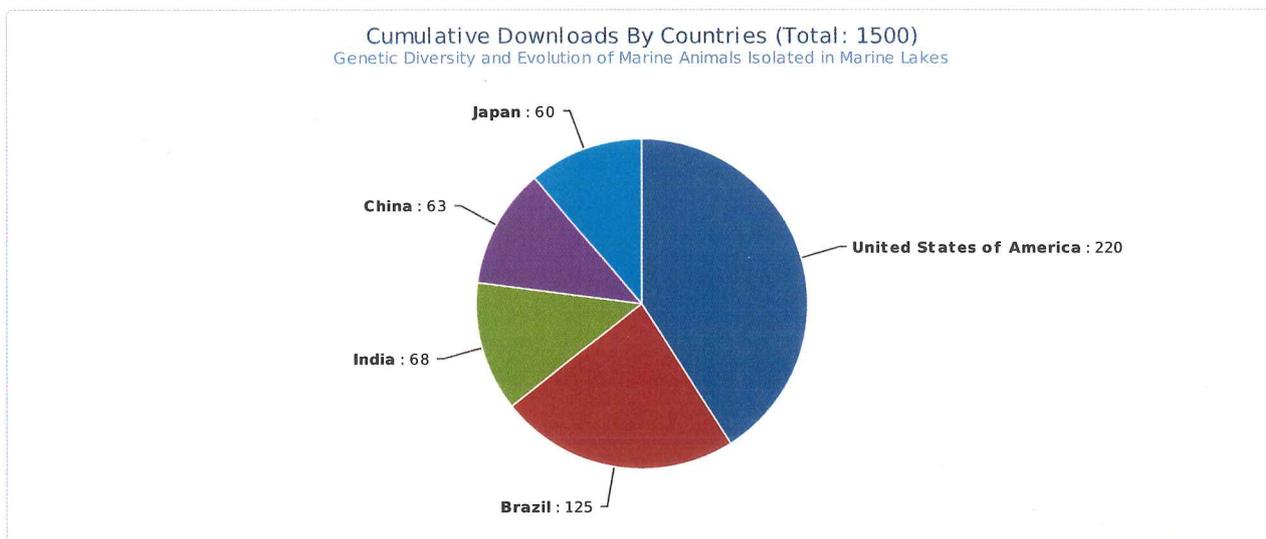
Publication date: February 2012

This document outlines some of the major factors influencing your paper statistics. The following are taken into consideration:

1. Cumulative downloads by countries/time frame
2. Cumulative downloads by countries
3. Cumulative downloads by time frame



The first graph shows the number of chapter downloads in the last six months by country. The countries represented in the graph are the TOP 5 countries from which your paper was accessed.



The pie chart above shows the download share by country. Again, the countries represented in the graph are the TOP 5 countries from which your paper was accessed.



9th Indo-Pacific Fish Conference

ABSTRACTS

24-28 June 2013

Okinawa Convention Center, Okinawa, Japan

Phylogeography of the Manybar Goatfish, *Parupeneus multifasciatus*, reveals isolation of the Hawaiian archipelago and a cryptic endemic lineage in the Marquesas

Zoltán Szabó¹, Brent Snelgrove², Matthew T. Craig³, Luiz A. Rocha⁴, and Brian W. Bowen¹

¹Hawai'i Institute of Marine Biology, 46-007 Lilipuna Rd, Kane'ohe, HI 96744, USA (e-mail: zoltan.himb@gmail.com). ²Department of Biology, University of Hawai'i, Honolulu HI, 96822, USA, ³Department of Marine Science and Environmental Studies, University of San Diego, San Diego, CA, 92110, USA, ⁴Section of Ichthyology, California Academy of Sciences, San Francisco, CA, 94118, USA

To assess genetic connectivity in a common and abundant goatfish (family Mullidae), we surveyed 637 specimens of *Parupeneus multifasciatus* from 22 locations across the Pacific Ocean with a focus on the Hawaiian Islands. Based on mtDNA cytochrome *b* sequences we found no evidence of population structure across Hawai'i and the North Pacific, however we observed genetic structuring between northern and southern Pacific locations with the equator-straddling Line Islands affiliated with the southern population. The Marquesas sample in the South Pacific was highly divergent ($d = 4.12\%$ average sequence divergence) possibly indicating a cryptic species. Preliminary morphological examination, however, did not yield any obvious characters to distinguish these two evolutionary lineages. These findings demonstrate that this goatfish is capable of extensive dispersal, consistent with early life history in the Mullidae, and indicate that the Marquesan archipelago is highly isolated from the adjacent Society Islands.

Marine lakes in Palau are "Islands" for marine species

Ryo O. Gotoh¹, Takuya Shirakuma² and Naoto Hanzawa^{1,2}

¹Department of Biology, Faculty of Science, Yamagata University, 1-4-12 Kojirakawa, Yamagata 990-8560, Japan (e-mail: rogotoh@gmail.com). ²Graduate School of Science and Engineering, Yamagata University, 1-4-12 Kojirakawa, Yamagata 990-8560, Japan (e-mail: hanzawa@sci.kj.yamagata-u.ac.jp).

Little is known about evolution of marine species in geographically isolated-environments, because ocean currents often facilitate gene flow among populations. We focused on marine lakes of Palau Islands that are oceanic islands located in western Pacific. A large number of these islands are composed of limestone derived from hard corals, and there are 70 marine lakes in the islands. Meromictic marine lakes particularly harbor unique marine fauna that have been isolated since the formation of the lakes after the Last Glacial Maximum (ca. 12,000 years ago). Therefore, marine lakes are considered to be isolated marine environments like terrestrial islands for marine species. To examine evolutionary processes in marine lakes, we conducted population genetic analyses on marine lake populations of orbiculate cardinalfish, *Sphaeramia orbicularis*, coastal cardinalfish, *Apogon lateralis*, and striped silverside, *Atherinomorus endrachtensis*, using molecular markers: mitochondrial DNA (mtDNA) and comparative genome derived simple sequence repeats (CG-SSRs). The results showed that level of genetic diversity of marine lake populations is considerably lower than that of lagoon populations, suggesting that the marine lake populations clearly experienced strong bottleneck event (founder effect). Furthermore, marine lake populations have different genetic structure from each other, even in the same island. This result could be ascribed to differences of their formation age. So far, such high genetic divergences in extreme narrow geographical ranges (ca. 150–250 m) have scarcely been reported for marine organisms. Our studies showed that almost all marine lake populations have been completely isolated each other and have been differentiated from lagoon populations, and each marine lake population has been experienced different evolutionary processes. These findings clearly demonstrate that marine lakes are excellent model for the evolutionary study of marine species.

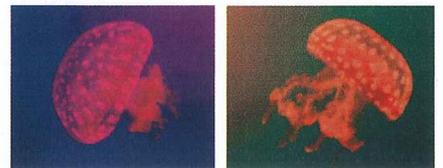
第4期

クラゲマイスター 養成講座(初級)のご案内

やまがた『科学の花咲く』プロジェクトでは、科学が文化として地域社会に根付くよう県内各地域、各分野の大学、科学館、研究機関、教育関係者などの連携による科学技術理解の活動充実や活発化、サイエンス・コミュニケーター養成をすすめています。地域や家族での「科学遊び」など、身近な科学コミュニケーションの活発化をすすめ、科学への関心が低い人も興味を持ち、地域全体で、誰もが科学に触れて楽しめる環境づくりをすすめています。

やまがた『科学の花咲く』プロジェクトでは、地域や家庭でクラゲの不思議や面白さ、科学技術を伝える講師や補助者になっていただくための指導者(クラゲマイスター)養成講座を下記の通り開講します。

日時・場所	講座名	講座内容
平成25年 7月13日(土) 9:00~17:30 7月14日(日) 9:00~17:00 山形大学農学部 (鶴岡市若葉町 1-23) 鶴岡市立加茂水族館 (鶴岡市今泉字大久保656)	プロジェクトについて	プロジェクト説明
	自己紹介	
	クラゲに対する安全講座	カギノテクラゲの刺傷被害の症例
	クラゲ学習会1	クラゲに関する基礎講座
	加茂水族館のクラゲ展示の歴史	加茂水族館のクラゲ展示の取り組みについて
	安全講習	海での安全な採取方法について
	クラゲ採集	カギノテクラゲの採集、実際に海に行きクラゲを採取
	クラゲ学習会2	パラオのクラゲ
	実験指導講座	マイスター活動の報告等
	クラゲの説明実習	クラゲについて実際に説明するための実施訓練等
7月27日(土) イオンモール三川 (山形県東田川郡三川大字 猪子字和田庫128-1) または 9月1日(日) 日本一の芋煮会フェスティバル (馬見ヶ崎河川 双月橋付近) いずれも 9:00~16:00	講演会	ボランティア活動等についての講演会、ディスカッション
	実験指導実施講座	準備および実施指導、 イオンモール三川、または 日本一の芋煮会 フェスティバルの いずれかで、指導者として 実施



- 受講料/無料
- 申込方法/裏面受講申込書により申し込んでください。
- 応募資格/高校生以上
- 締切/平成25年6月21日(金)
- 定員/20名(応募者多数の場合には抽選となります)

**受講無料
定員20名**

お問い合わせ



やまがた『科学の花咲く』プロジェクト事務局

〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12 山形大学SCITAセンター

TEL・FAX (023)628-4517

E-mail: kagaku-scita@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

HP: <http://mirai.scita.jp/~chiiki/> 担当: 菅原・伊藤・乾

平成25年7月23日
山形大学

第6回山形大学高校生朗読コンクール／群読劇を開催します

山形大学特別プロジェクト「いま、言葉を東北の灯（ともしび）に」の事業として、9月8日（日）に、第6回山形大学高校生朗読コンクールと群読劇「グスコブドリの伝記」を開催します。

東北の未来を考えるために、東北に生まれ、東北に根ざした作品を発表した宮沢賢治の作品を東北の人びとが中心となって東北の地で表現する催しです。

東北の人びとが未来に希望の灯を見いだすための一助となれればと願っています。

◆概要

日時：平成25年9月8日（日）13時30分～17時ごろ

第一部：山形大学高校生朗読コンクール

第二部：群読劇「グスコブドリの伝記」

場所：シベールアリーナ（山形市蔵王松ヶ丘）

演出：佐藤 正文氏（演出家、酒田市出身）

出演：益岡 徹、磯部 勉

群読隊：山形の子どもたち・一般市民・山形大学生約40名

◆朗読コンクール

・コンクールには、予選を通過した東北六県の高校生（現在予選審査中）10名が出演し、岩手県出身の作家宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』のそれぞれ異なる部分を朗読します。

◆群読劇

・宮沢賢治の童話「グスコブドリの伝記」にもとづく群読劇（集団での朗読を主体とした劇形式）です。

・「グスコブドリの伝記」は、酒田市出身の演出家佐藤 正文氏が演出を担当、益岡 徹さん、磯部 勉さんの2名の俳優をお招きし、山形の一般市民と子どもたち、山形大学の学生およそ40名が一体となって舞台をつくります。

（お問合せ先）

山形大学渉外部渉外課

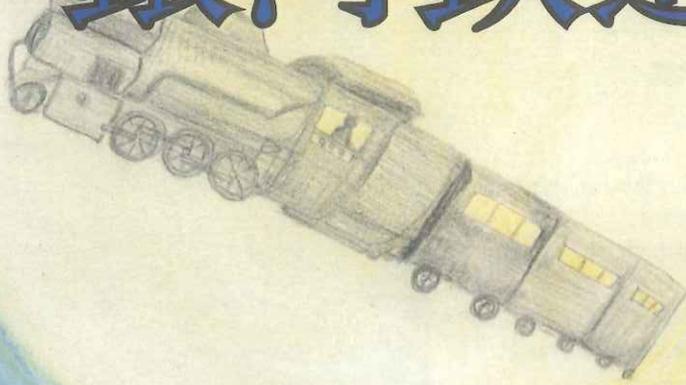
（TEL）023(628)4016

山形大学特別プロジェクト

いま、言葉を東北の灯に

第6回山形大学高校生朗読コンクール

銀河鉄道の夜



群読劇

グスコーブドリの伝記



日時:平成25年9月8日(日)

13:00開場 13:30開演(終演17:00ごろ)

会場:シベールアリーナ(山形市蔵王松ヶ丘二丁目1番3号)

入場方法:一般市民200名を無料で招待します。ただし入場券が必要です。

※入場券申し込み方法:往復ハガキに〈代表者氏名〉〈郵便番号-住所〉〈電話番号〉〈入場希望者氏名(代表者含め3名まで)〉を記入しお申し込みください。後日返信用ハガキに入場券を印刷してお送りします。

※先着順に受け付け、定員に達し次第締め切ります。

受付開始:平成25年8月1日(水)到着分より

主催:国立大学法人 山形大学

共催:公益財団法人 弦地域文化支援財団

申込・お問い合わせ先:山形大学渉外部渉外課

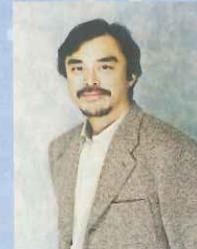
〒990-8560 山形市小白川町1-4-12

TEL:023-628-4016

※電話によるお問い合わせは平日9:00~17:00にお願いします。

※個人情報については、入場券発送のみに利用いたします。

群読劇出演者



益岡 徹



磯部 勉

群読隊

山形の子どもたち・一般市民・
山形大学生約40名

「銀河鉄道の夜」/「グスコープドリの伝記」

【タイムスケジュール】

- 13:30 第一部 高校生朗読コンクール
15:00 ころ 第二部 群読劇「グスコープドリの伝記」
16:30 ころ 第三部 コンクール結果発表・表彰式

【朗読コンクール・朗読劇について】

山形大学高校生朗読コンクールは東北出身の作家・東北を描いた作品を課題として取り上げ、東北を描いた優れた文学的文章に触れることで、東北の未来を考えていこうとする試みです。

予選を通過した東北の高校生たちが、岩手県出身の作家、宮沢賢治による童話の代表作の一つである『銀河鉄道の夜』をリレーで朗読します。

また同じく宮沢賢治作『グスコープドリの伝記』の群読劇では、演出は酒田市出身の佐藤正文さん、出演者として磯部勉さん・益岡徹さんを招き、山形の子どもたち、一般市民の皆さま、山形大学学生およそ40名とともに舞台を作り上げます。



【出演者プロフィール】

磯部勉 (いそべ・つとむ)

東京都出身。1972年俳優座へ入団。89年の退団までシェイクスピア作品で主役を務める他、清水邦夫作品などの外部公演にも多数出演。

NHK大河ドラマや「水戸黄門」などのTVドラマの出演、ハリソン・フォード、メル・ギブソン、チュウ・ユンファの吹替え、アニメ「ヨルムンガンド」「マルドゥック・スクランブル」の吹替えなど幅広く活躍している。

益岡徹 (ますおか・とおる)

俳優・ナレーター。1956年生まれ。早稲田大学商学部卒業と同時に、仲代達矢氏主宰の無名塾に入塾。映画・舞台・TVドラマなど幅広い分野で活躍している。情感のあるナレーションにも定評があり、ドキュメンタリー番組やラジオドラマ、広告の作品で日本民間放送連盟賞などを受賞。映画「釣りバカ日誌」「聯合艦隊司令長官 山本五十六」「宇宙兄弟」「臨場」、テレビ大河ドラマ「飛ぶが如く」(NHK)、朝の連続テレビ小説「ウェルかめ」(NHK)、「京都地検の女」(テレビ朝日)、「レディ・ジョーカー」(WOWOW)。舞台「炎の人」(ホリプロ)、「負傷者16人」(新国立劇場)、「耳なし芳一」(神奈川芸術劇場)など出演作多数。「世界わが心の旅」(NHK)、「グレートジャーニー」(CX)等のナレーションを担当。

【演出・出演】



佐藤 正文 (さとう・まさふみ)

俳優・演技トレーナー。日本大学芸術学部演劇科非常勤講師(演技実習担当)。酒田市生まれ。酒田東高等学校、桐朋学園大学演劇専攻科卒業。劇団俳優座を経て安部公房スタジオ創立に参加。のちフリー。1979年『仔象は死んだ』に出演、米国5都市を巡演。俳優座劇場プロデュース、無名塾、地人会などの公演に多数出演。1996年コロンビア大学で開催された安部公房シンポジウムにおいて、演技術・安部公房システムを紹介。1997年シンポジウム・安部公房『演劇の仕事』及びワークショップ『安部システム』を旧メンバーとともに主催。私塾A.T.ラボ(1985年創立)を主宰。2004年ギィ・フォワシィ演劇コンクールに於いて、演出した『ストレス解消センター行き』が最優秀賞を、2006年には『救急車』が優秀賞を、2013年には『ストレス解消センター行き』で再び最優秀賞を受賞。スターダスト・プロモーション、avex等の芸能プロダクションで、演技レッスン担当、多数のスタータレントを育てる。名古屋など地方都市でのワークショップを精力的に行っている。

【会場案内】

会場：シベールアリーナ (山形市蔵王松ヶ丘 2-1-3)

電話番号：023-689-1166

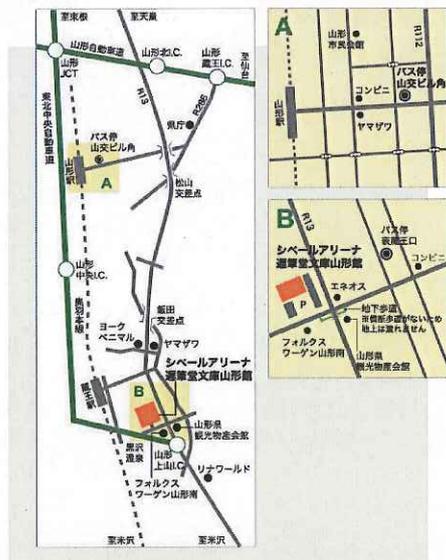
webサイト：<http://www.gen.or.jp/access/>

【アクセス】

お車の場合：山形自動車道～山形蔵王I.C. から国道13号線を米沢方面へ約30分

東北中央自動車道～山形上山I.C. から国道13号線を山形方面へ約3分

徒歩の場合：JR蔵王駅より徒歩20分



平成25年7月23日
山形大学

『奥の細道マイスター養成講座(初級)』を開催します

◆概要

山形大学では、平成24年度に「奥の細道マイスター事業」をスタートしました。

この事業は、元禄二（1689）年の芭蕉のみちのくの旅を学んで、東北の歴史・文化を語れるボランティアガイドの育成に加え、震災後の東北の文化的ネットワークを構築するという取り組みです。初級・中級・上級の各講座を毎年一回開催しますので、マイスターを希望される方は、初級から受講を開始していただきます。初級は山寺、中級は山形県庄内地方、上級は宮城県内で実施します。

◆平成25年度初級講座のスケジュール

「奥の細道マイスター養成講座①」（兼）第23回山寺芭蕉記念館文化セミナー第2部

日時：10月11日（金） 17:00～20:30

場所：山形市霞城公民館（予定）

日程：17:00～17:30 開講式（マイスター養成講座受講生のみ）

18:30～20:30 公開講座 第1部 講演「立石寺の考古学的知見」

第2部 シンポジウム「芭蕉が出会った山寺の魅力」

「奥の細道マイスター養成講座②」

日時：10月12日（土）

場所：山寺芭蕉記念館

日程：午前：立石寺現地講座

午後：「企画展 頼原退蔵・尾形仂コレクション展」展示品解説・ギャラリートーク
会議室で講座

「奥の細道マイスター養成講座③」

日時：10月13日（日）

場所：山寺芭蕉記念館

日程：午前：「おくのほそ道」と芭蕉についての講座

午後：認定試験・修了式

●主催／山形大学

●共催／山寺芭蕉記念館指定管理者 財団法人山形市文化振興事業団

（お問い合わせ）

山形大学渉外部渉外課

（TEL）023-628-4843

奥の細道マイスター 養成講座(初級)のご案内

山形大学では、平成24年度に「奥の細道マイスター事業」をスタートしました。

元禄二(1689)年の芭蕉のみちのくの旅を学んで東北の歴史・文化について語れるボランティアガイドの育成に加え、震災後の東北の文化的ネットワークを構築する取り組みです。

初級・中級・上級の各講座を毎年一回開催します。マイスターを希望される方は初級から受講を開始していただきます。初級は山寺、中級は山形県庄内地方、上級は宮城県内で実施します。

平成25年度の初級講座は、下記期日で開設します。

(会場は変更になる場合があります。変更する場合は受講決定時にご連絡します)

◆平成25年度開講日程(平成25年10月11日(金)～13日(日))

○第一日目「奥の細道マイスター養成講座①」(兼)第23回山寺芭蕉記念館文化セミナー第2部

日時: 10月11日(金)17:00～20:30

場所: 山形市霞城公民館(予定)

日程: 17:00～17:30 開講式(マイスター養成講座受講生のみ)

18:30～20:30 公開講座「山寺立石寺と『おくのほそ道』」

第1部 講演「立石寺の考古学的知見」

(講師: 荒木志伸山形大学基盤教育院准教授)

第2部 シンポジウム「芭蕉が出会った山寺の魅力」

(相原一士山寺芭蕉記念館学芸員・荒木志伸准教授・

山本陽史山形大学基盤教育院教授

コーディネーター: 伊藤 悟山形大学渉外部准教授)

(11日の公開講座のみの定員: 300名) 入場料: **無料**



○第二日目「奥の細道マイスター養成講座②」

日時: 10月12日(土)

場所: 山寺芭蕉記念館(山形市大字山寺字南院4223)

日程: 午前: 立石寺現地講座(講師: 荒木志伸准教授)

午後: 「企画展 頼原退蔵・尾形仂コレクション展」展示品解説・ギャラリートーク

(講師: 相原一士山寺芭蕉記念館学芸員、山本陽史教授)

会議室で講座

(講師: 荒木志伸准教授・山本陽史教授)

○第三日目「奥の細道マイスター養成講座③」

日時: 10月13日(日)

場所: 山寺芭蕉記念館(山形市大字山寺字南院4223)

日程: 午前: 『おくのほそ道』と芭蕉についての講座

(講師: 山本陽史教授)

午後: 認定試験・修了式

○受講料/無料

○申込方法/裏面受講申込書により郵送またはFAXにて申し込んでください。

○締切/平成25年9月10日(火)(公開講座は、平成25年9月30日(月))

○定員/マイスター養成講座 20名(応募者多数の場合には抽選となります。)

公開講座 300名(定員になり次第締め切らせていただきます。)

なお、マイスター養成講座受講決定者は必ず聴講していただきます。)

お問い合わせ先

山形大学渉外部渉外課

〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12

TEL: 023-628-4843 FAX: 023-628-4849

E-mail: k-sangaku@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



奥の細道マイスター養成講座 公開講座聴講者募集！

山形大学では、昨年度から「奥の細道マイスター養成講座」を開講しています。被災した東北地方を縦断し、芭蕉が足跡を残した各地にマイスターを養成し、観光等のボランティアとして活躍していただく事業です。

養成講座の中の公開講座は、マイスター講座受講生以外の皆様にも開放します。

主催／山形大学 共催／山寺芭蕉記念館指定管理者 財団法人山形市文化振興事業団

日時：平成25年10月11日（金） 18:30～20:30

場所：山形市霞城公民館（予定）

第1部 講演「立石寺の考古学的知見」

講師：荒木志伸山形大学基盤教育院准教授

第2部 シンポジウム「芭蕉が出会った山寺の魅力」

相原一士山寺芭蕉記念館学芸員・荒木志伸山形大学 基盤教育院准教授・山本陽史山形大学基盤教育院教授
コーディネーター：伊藤悟山形大学渉外部准教授

○受講料／無料

○申込方法／受講申込書により郵送またはFAXにて申し込んでください。

○締切／平成25年9月30日（月）

○定員／一般市民 300名（定員になり次第締め切らせていただきます。）

※駐車台数に限りがありますので、
公共交通機関をご利用願います。

お問い合わせ先

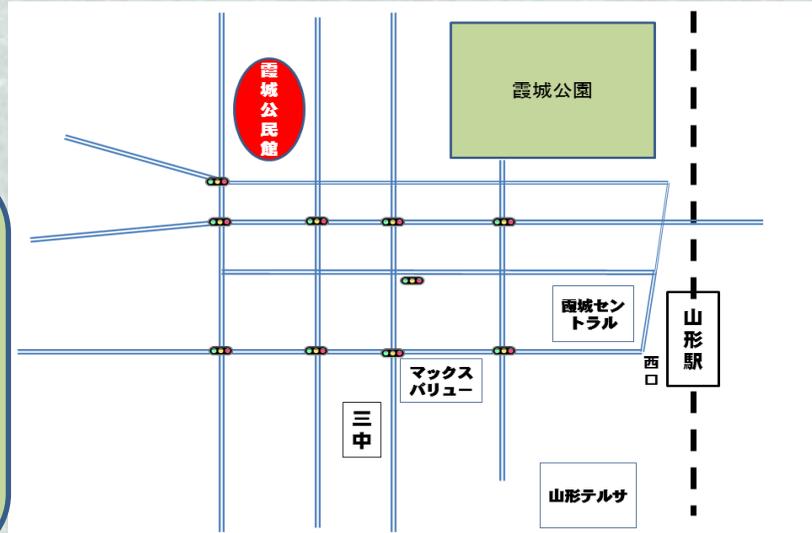
山形大学渉外部渉外課

〒990-8560

山形市小白川町一丁目4-12

TEL：023-628-4843 FAX：023-628-4849

E-mail：k-sangaku@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



奥の細道マイスター養成講座公開講座受講申込書

お名前：

ご住所：〒

同行者氏名(申込者含め3名まで)：①

②

電話番号：

ファックス番号(任意)：

Eメールアドレス(任意)：

プレス通知資料（概要）

平成25年7月23日
山形大学

1. 大学コンソーシアムやまがた「やまがた夜話」の開催

「大学コンソーシアムやまがた」では、「もう一つの人づくり」を実現するため、「山形県の人・モノ・地域作り」をテーマに、「やまがた夜話」を開催し、それぞれの得意分野で活躍している第一人者の方からお話しをしていただきます。

8月は、『山形発 ～食の魅力と可能性～』をテーマに4回開催します。

- ◆日時： ※全日、18:30～19:30まで
- 8月21日（水）鹿野 一郎 氏（山形大学大学院理工学研究科 准教授）
- 8月22日（木）滝田 潤 氏（日東ベスト(株)中央研究所）
- 8月27日（火）西岡 昭博 氏（山形大学大学院理工学研究科 教授）
- 8月28日（水）五十嵐喜治 氏（山形大学名誉教授）
- ◆場所：ゆうキャンパス・ステーション（山形市：山形むらきさわビル1階）
- ◆対象：高校生・学生・一般市民 定員50名（参加費は無料）

〔詳しくは、別添の資料をご覧ください〕

2. FDネットワーク“つばさ”プロジェクト 大地連携ワークショップの実施

このワークショップは、文部科学省平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」に採択された、「東日本広域の大学間連携による教育の質保証・向上システムの構築」FDネットワーク“つばさ”プロジェクトによる事業です。平成25年度は金山町において、「きらり金山再発見！1番人気はどの地域だ！？」をテーマに地域の活性化に取り組みます。

- ◆期間： 8月6日（火）～9日（金）
 - ◆参加者： 山形大学の5名と以下の14名 計19名
 - （北海道）北翔大学2名、札幌大学女子短期大学部1名
 - （青森県）青森中央短期大学2名
 - （千葉県）国際武道大学3名
 - （東京都）日本女子大学3名、東京造形大学1名、東京家政学院大学2名
- 〔詳しくは、別添の資料をご覧ください〕

※ これまでの学長定例会見でお知らせをしたもので、開催がせまっているイベント

○山形大学オープンキャンパス2013を開催

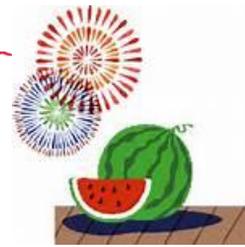
山形大学を志望している受験生や、高校1・2年生、高校教員、保護者等の皆様を対象に「山形大学オープンキャンパス2013」を開催します。山形大学のことをより詳しく知っていただくため、各学部（学科）概要説明や、模擬講義、体験授業、相談コーナー等を行います。

- ◆開催日：
- 飯田キャンパス（医学部） 7月27日（土）
- 米沢キャンパス（工学部） 8月 2日（金）
- 鶴岡キャンパス（農学部） 8月 2日（金）
- 小白川キャンパス（人文学部、地域教育文化学部、理学部） 8月 3日（土）

〔詳しくは、別添の資料をご覧ください〕



やまがた夜話



テーマ 『山形発 ～食の魅力と可能性～』

8月21日(水) 熱と流れと食品にかかわるお話

18:30～19:30

ー食品乾燥と植物工場ー

鹿野 一郎 氏 (山形大学理工学研究科准教授)

8月22日(木) 県産素材の良さを再発見! ー山形県特産品の魅力ー

18:30～19:30

滝田 潤 氏 (日東ベスト(株)中央研究所)

8月27日(火) 工学技術から米粉100%パンができる!?

18:30～19:30

ープラスチックとパンの意外な共通点ー

西岡 昭博 氏 (山形大学理工学研究科教授)

8月28日(水) ベリー類の魅力とは? ー健康と山形風土から考えるー

18:30～19:30

五十嵐喜治 氏 (山形大学名誉教授)

会場 ゆうキャンパス・ステーション
(山形むらさきさわビル1階)

アクセス 山形駅東口より徒歩1分

対象 高校生・学生・一般市民

お申し込み 電話又はチラシ裏面の参加
申込書に必要事項を記入の
上Fax、郵送、メール等でお
申し込みください。

入場無料

定員:50名



主催

大学コンソーシアムやまがた

お申込み・お問合せ



大学コンソーシアムやまがた

〒990-0039 山形市香澄町1-3-15 山形むらさきさわビル1階

Tel: 023-628-4842 FAX: 023-628-4820

E-mail: unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



FAX:023-628-4820

大学コンソーシアムやまがた事務局 行き

やまがた夜話に参加申込みをします。

必要事項を明記の上、FAX・郵送またはE-mailにてお申込ください。

申込締切日:それぞれの夜話前日までにお申込をお願いいたします。

参加日	参加希望日に☑、又は日付を○で囲んでください。 <input type="checkbox"/> 平成25年 8月21日(水) 講師: 鹿野 一郎 氏 <input type="checkbox"/> 平成25年 8月22日(木) 講師: 滝田 潤 氏 <input type="checkbox"/> 平成25年 8月27日(火) 講師: 西岡 昭博 氏 <input type="checkbox"/> 平成25年 8月28日(水) 講師: 五十嵐喜治 氏
住所	〒
氏名	
連絡先	TEL
	E-mail
所属	

受講申込者が多数の場合は、お手数ですが参加申込書をコピーしてご利用ください。

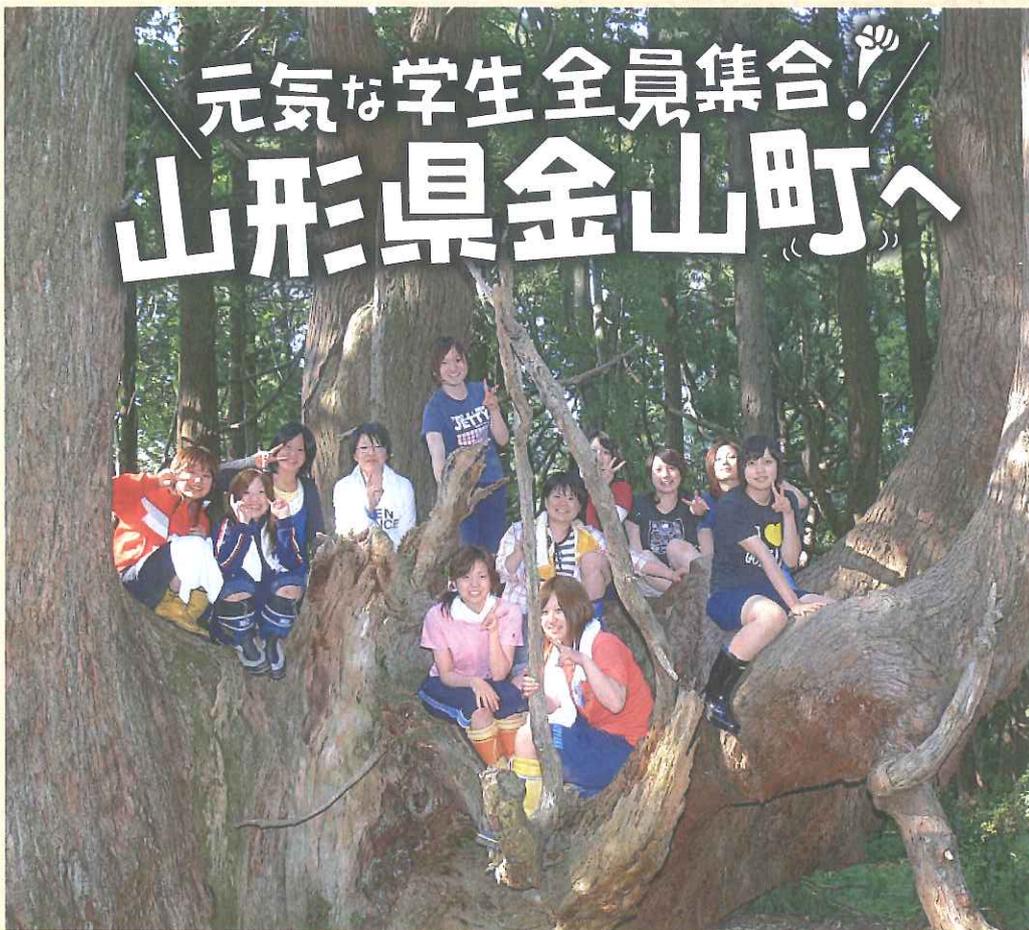
この申込書にご記入いただいた情報は、今回の講座を受講するために必要な事務連絡等に使用すると共に、参加者名簿の作成にのみ使用させていただきます。

【お申込み・お問合せ先】

大学コンソーシアムやまがた ゆうキャンパス・ステーション

〒990-0039 山形市香澄町1-3-15 山形むらさきさわビル1階

TEL:023-628-4842 FAX:023-628-4820 E-mail:unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



大地 連携 ワークショップ

大地連携ワークショップとは、学生が地域社会に向いて学ぶ、現地体験宿泊型の地域連携授業です。そして、北海道・東北・関東地域のさまざまな大学から学生が参加する大学間連携授業でもあります。この授業では、地域での活動に参加しながら、地域固有の自然・歴史・文化・産業・人などと触れ合うことができます。平成25年度は「山形大学エリアキャンパスもがみ」の1つ、山形県最上郡金山町にて「**きらり金山再発見!〜1番人気はどの地域だ!?〜**」をテーマに地域の活性化に取り組みます。地域の子どもたち・お父さん・お母さん・おじいちゃん・おばあちゃん、そして他大学の学生と交流しながら、田舎を体験してみませんか？

参加者
募集

日時 平成25年 8月6日(火)～8月9日(金)

場所 山形県
最上郡金山町

申込締切日 6月14日(金) ※先着順につき定員になり次第締め切らせていただきます。

募集人数 定員 15名まで
(各大学から2名まで)

参加費用 8,000円(食事代・交流会費等)
※山形までの交通費、宿泊費は支給します
※詳細は下記担当窓口まで

参加条件 “つばさ”プロジェクト連携校の学生(学年・年齢・性別不問)
※全日程に参加した学生には、修了証を授与します。



※参加希望者は自分の大学の担当者を通じて申し込んでください。参加が決定した方には、後日詳細を連絡します。

主催:山形大学
FDネットワーク“つばさ”プロジェクト 連携校・連携機関

〈担当窓口〉

〈連携校〉

山形大学(代表校)、会津大学、札幌大学、北翔大学、青森中央学院大学、石巻専修大学、東北芸術工科大学、東日本国際大学、明海大学、国際武道大学、了徳寺大学、東京家政学院大学、東京造形大学、日本女子大学、札幌大学女子短期大学部、北翔大学短期大学部、青森中央短期大学、羽陽学園短期大学、いわき短期大学

〈連携機関〉

北海道教育委員会、北海道釧路市、北海道沙流郡平取町、NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構、山形県新庄市、山形県最上郡金山町、山形県最上郡最上町、山形県最上郡舟形町、山形県最上郡真室川町、山形県最上郡大蔵村、山形県最上郡鮎川村、山形県最上郡戸沢村、神奈川県川崎市、神奈川県相模原市

山形大学エリアキャンパスもがみ

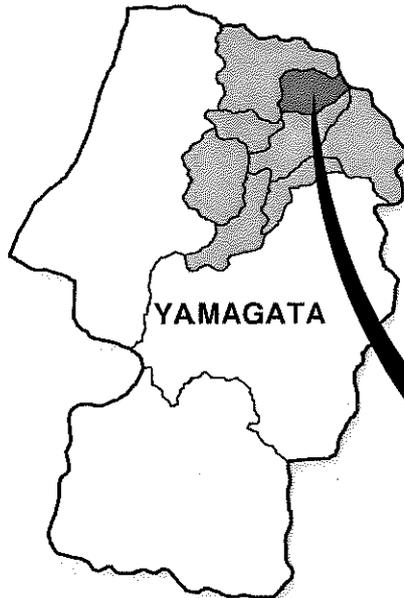
— 新たな大学教育の展開と地域の活性をつなぐ —

自然、文化、人、「もがみ」を感じ、考え、動く。



「フィールドワーク-共生の森もがみ」は、地域固有の本物の自然や地域に根ざした歴史・文化を活用して、「環境」と「人」とが共生した生活ができる理想的な地域社会の実現を目標としている最上広域圏を、学生に直に感じてもらうために企画された授業です。個性豊かな8つの市町村をそのまま教育のフィールドとするダイナミックな授業であり、自然に恵まれた山形大学でしか実現できないものです。また、受け入れ側の市町村が、地域の特色を現す講師を提供し、授業実施の全般を担当する形で行われているのも特長の一つです。

大学のキャンパスから、広大な最上広域圏に飛び出し、自然・環境・文化・歴史・ひとを体全体で感じながら、自らの成長に役立つ何かを見つけてください。五感を研ぎ澄ませば宝物はすぐ近くにあります!



× キラリ金山再発見! × ～ 一番人気はどの地域だ!? ～

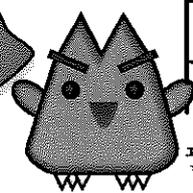
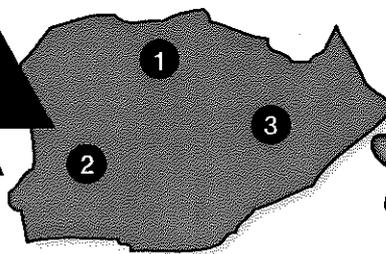
目的

地域の人たちと学生の皆さんが一緒になって地域の宝探しをすることで、新たな発見や魅力を掘り起こす。

概要

金山町を3つの地域(ゾーン)に分けて、その地域の人たちとそれぞれ班ごとに地域のお宝探しをしてもらいます。そして、この地域の魅力はこれだ!と学生の皆さんからアピールをしてもらい、地域の人たちから一番魅力的だったところを投票していただき、魅力No.1を決めます!皆さんの視点で金山町の魅力を引き出してください!!

KANEYAMA



エリアキャンパスもがみ
マスコットキャラクター
YAMCA

【タイムスケジュール】

※スケジュールは変更になる場合があります。

8月6日(火) (1日目)

- 7:50 山形大学正門集合*1
- 8:00 バスで金山町に出発!
- 10:10 開講式
- 10:40 街並み散策
- 13:00 各班でフィールドワーク

8月7日(水) (2日目)

- 9:00 各班でフィールドワーク
- 18:00 交流会

8月8日(木) (3日目)

- 9:00 そば打ち体験
- 13:00 まとめ作業&補足調査

8月9日(金) (4日目)

- 10:00 発表会・No.1決定
- 13:00 フィールドワーク振り返り
- 15:00 閉講式
- 15:30 山形大学へ出発
- 18:00 解散*2

*1: 遠方からの参加者は、山形市内で前泊してもらいます。

*2: 遠方からの参加者は、山形市内で後泊できます。

① 「農業・郷土グルメ」ゾーン

農業を体験しつつ、金山の郷土グルメを探す。

- 農作業体験 ■ブルーベリー狩り ■ニラ収穫 ■そば打ち体験

② 「林業・まちづくり」ゾーン

森林整備をしながら、金山の巨木をめぐったり街並を探検したりする。

- 街中散策 ■林業整備 ■金山住宅見学 ■そば打ち体験

③ 「観光・ミステリー」ゾーン

谷口銀山や大美輪、岩円地蔵などの不思議な空間を体験し、その散策道を整備する。

- 谷口銀山探索 ■安沢・岩円地蔵等整備 ■そば打ち体験

【“つばさ”プロジェクト「大地連携ワークショップ」 プログラム詳細】

【1日目】8月6日（火）			【3日目】8月8日（木）
10:00 金山町中央公民館着			9:00 「谷口がっこそば」にてそば打ち体験 12:00 昼食（自分で打ったソバ） 13:30 プレゼン資料作成（中央公民館）と補足調査 17:00 ホテル着
10:00 開講式			
10:30 街並み散策			
12:00 昼食			
13:00 各班に分かれてFW開始			
1班（農業・郷土グルメ）	2班（林業・まちづくり）	3班（観光・ミステリー）	
13:30 農業体験（ネギ収穫等）	13:30 巨木探検（大美輪・ブナ他）	13:30 谷口銀山探索&整備	
17:00 ホテル着	17:00 ホテル着	17:00 ホテル着	
【2日目】8月7日（水）			【4日目】8月9日（金）
5:00 早朝農業体験（ニラ収穫）	8:30 森林整備体験（町内の山林）	8:30 大美輪見学	9:00 中央公民館にて発表会準備 10:00 発表会(町民の方々も参加) 12:00 昼食 13:30 FW振り返り（山形大学より） 15:30 山形大学へ出発
7:00 朝食（ホテル）		9:00 安沢青龍寺付近整備	
8:00 ニラ収穫		10:30 片貝岩円地蔵整備	
12:00 昼食	12:00 昼食	12:00 昼食	
13:00 ニラ収穫・選別作業、 又はブルーベリー狩り	13:00 森林整備→金山住宅・木質 チップボイラー見学	13:00 上台峠散策	
15:00 ホテル着	16:00 ホテル着	16:00 ホテル着	
18:00 交流会			

- 1日目午後から2日目終了まで、3班に分かれてフィールドワークを行う。
(1. 農業・郷土グルメゾーン 2. 林業・まちづくりゾーン 3. 観光・ミステリーゾーン)
- 3日目午後は、金山町中央公民館にてプレゼン資料作成と補足調査を行う。
- 4日目は、3班合同で発表会を行い、参加している町民の方投票により、No.1を決定する。午後は、山形大学基盤教育院 杉原 真晃准教授がまとめの講義を行う。

<問い合わせ先> 山形大学小白川キャンパス事務部 教務課教育企画担当 TEL / FAX 023(628)4720

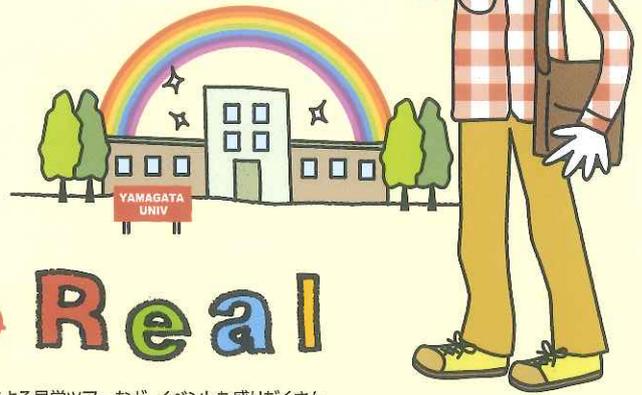


Image → Real

入学後の学問内容がイメージできる模擬授業や、在学生による見学ツアーなど、イベントも盛りだくさん。
オープンキャンパスに参加して、キミもアコガレの大学のことをもっと深く知ろう!

YAMAGATA UNIV. OPEN CAMPUS'13

[山形大学オープンキャンパス 2013]

7月27日(土)

医学部—飯田キャンパス(山形市内)

医学科 10:00~12:30(受付は9:30から)

医学科は体験授業も開講します。 13:30~15:40

看護学科 14:00~16:30(受付は13:20から)

*看護学科棟の施設見学・演習体験は13:00から参加可能です。

8月2日(金)

工学部—米沢キャンパス(米沢市内)

9:30~16:30(受付は9:00から)

農学部—鶴岡キャンパス(鶴岡市内)

10:40~16:00(受付は9:30から)

8月3日(土)

人文学部—小白川キャンパス(山形市内)

9:30~16:00(受付は8:30から)

地域教育文化学部—小白川キャンパス(山形市内)

9:30~16:30(受付は9:00から)

理学部—小白川キャンパス(山形市内)

9:30~16:00(受付は9:00から)

工学部、農学部の相談ブースも設置します。 9:30~16:30

◎各キャンパス「最寄の駅」から無料シャトルバスを運行いたしますのでご利用ください。
(小白川キャンパス—山形駅、飯田キャンパス—山形駅、米沢キャンパス—米沢駅、鶴岡キャンパス—鶴岡駅)

◎小白川キャンパス(8/3開催)に自家用車でこられる場合は、構内に駐車スペースがありませんので「山形県庁駐車場」をご利用ください。山形県庁から小白川キャンパスまでは無料シャトルバスを運行いたします。

詳しくは山形大学ホームページをご覧ください。 <http://www.yamagata-u.ac.jp/index-j.html>

事前申込が必要です。山形大学ホームページか携帯サイトから申込ください。(原則として予約制ですが、当日の参加も歓迎します。)

◎携帯サイトからの申込はコチラ→

